

# 制裁下のロシア経済 ～さまざまな経済指標から～

2023年6月21日

新潟県立大学北東アジア研究所 新井洋史

# ロシア連邦概況

国名	ロシア連邦 RUSSIAN FEDERATION
成立	1991年ソビエト社会主義共和国連邦の解体に伴い、成立（独立）
面積	1,710万平方キロメートル（世界最大、日本の約45倍）
人口	1億4,645万人（2023年1月1日現在）
首都	モスクワ（人口1,310万人、2023年1月1日現在） ※欧州最大の都市
政治体制	大統領制（直接選挙）： ウラジーミル・プーチン（第4期、2018～24年）
経済体制	資本主義市場経済（1992年以降に社会主義計画経済から移行）
地域区分	89連邦構成主体（24共和国、9地方、48州、3市、1自治州、4自治管区） （ロシアが編入を宣言した地域を含む）
主要都市	サンクトペテルブルク（535万人）、ノヴォシビルスク（161万人）、エカテリンブルク（147万人）、ニジュニノヴゴロド（126万人）、カザン（124万人）、チェリャビンスク（120万人）、オムスク（117万人）、サマラ（116万人）、ロストフ・ナ・ドヌ（113万人）、ウファ（112万人）、クラスノヤルスク（109万人）
出所	ロシア連邦統計庁（ほか）

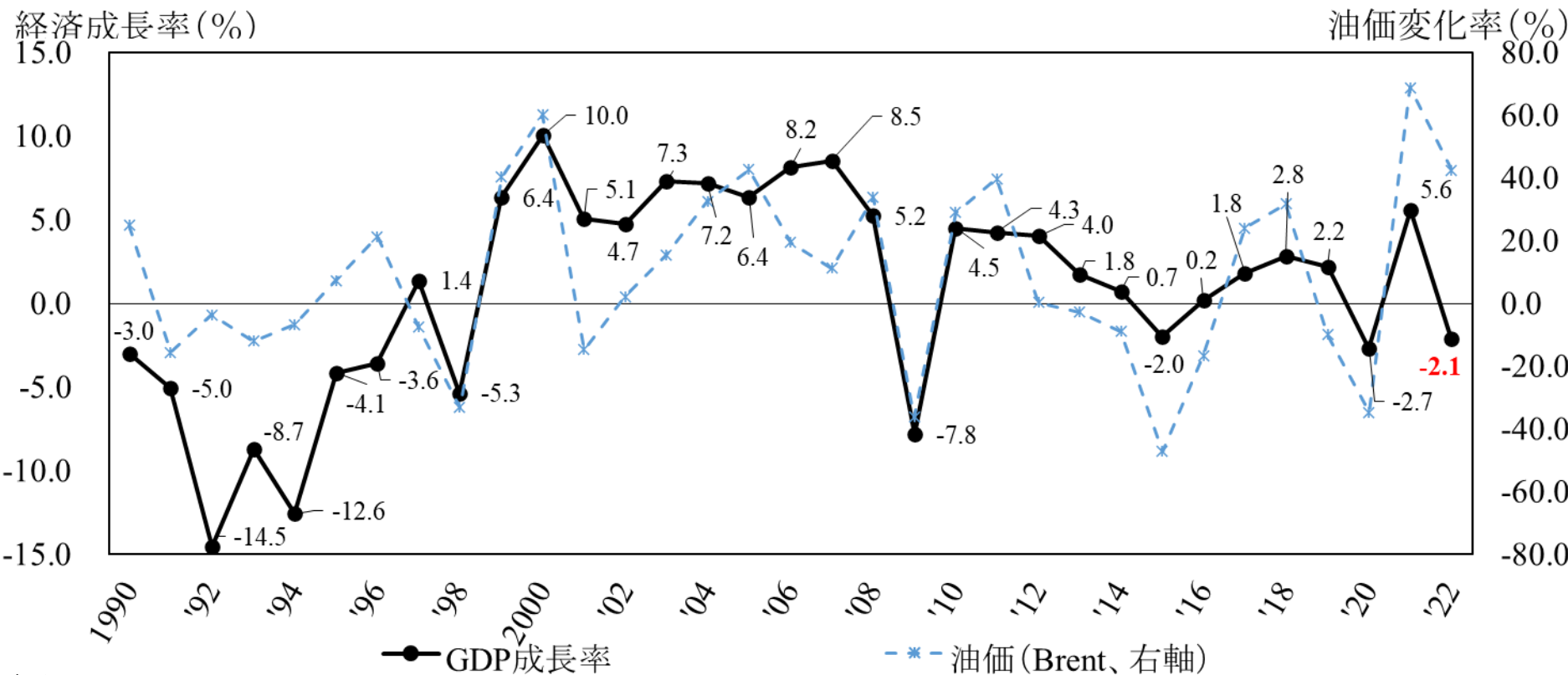
# 主な対ロシア制裁等

種類	内容
金融規制	個人資産凍結
	ロシア国債の取引禁止
	ロシア中央銀行の外貨準備の凍結
	ロシア主要銀行との取引の制限・禁止
	ロシア主要銀行のSWIFT（国際送金ネットワーク）からの排除
	ロシアへの新規投資の禁止
貿易規制	防衛品・資源開発関連の資機材の輸出禁止
	ハイテク製品（半導体を含む）、奢侈品の輸出禁止
	ロシア産化石燃料等の輸入禁止、価格上限設定
その他	渡航禁止
	「ノルドストリーム2」(天然ガスパイプライン)計画の停止
	ロシア国籍の輸送トラック、船舶、飛行機のEUへのアクセス禁止
制裁外	多国籍企業の自主的撤退(国際クレジットカードブランド、自動車産業、小売業など)

出所:各種資料より、筆者作成。

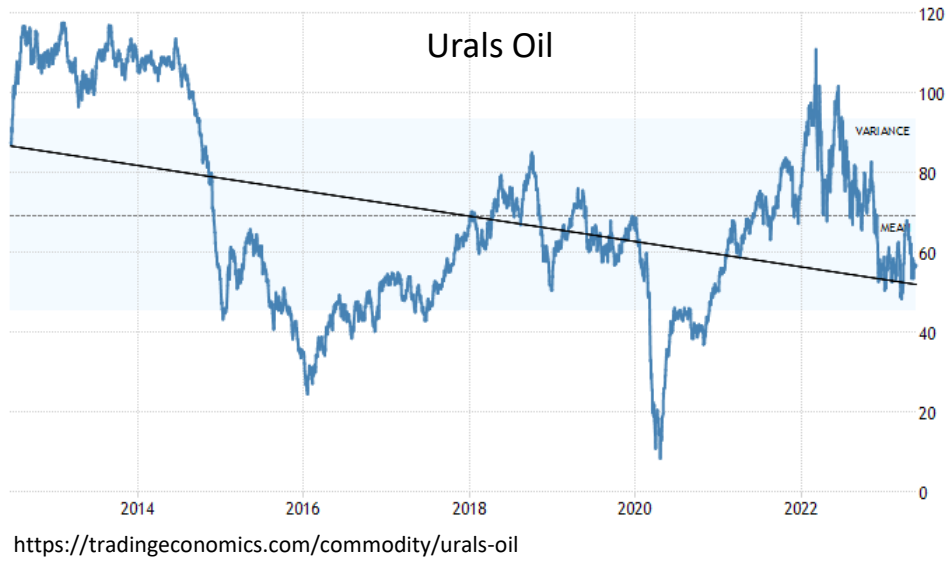
# 2022年、ロシア経済は2.1%のマイナス成長

- 戦争及び制裁が影響したのは确实
  - 油価依存経済のロシアで、油価が上昇したにも関わらず、マイナス成長となるのは異例
- 他方、90年代の社会混乱が起こるほどの経済の落ち込みではない
  - 2022年春には、ロシア中央銀行ですらマイナス10%程度の予測をしていたが、結果的に大きく外れた



データ: ROSSTAT, EIA

# ロシア産の「ウラル原油」の値引き

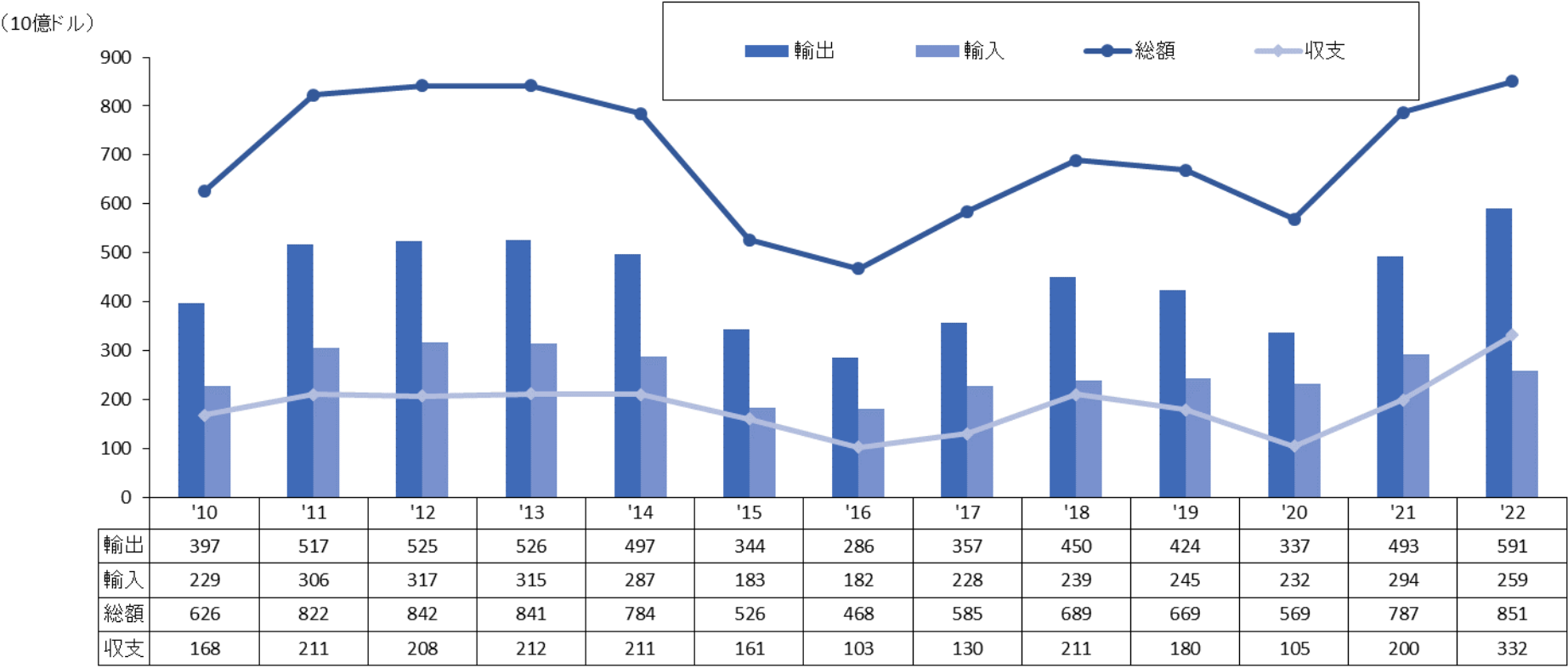


とはいえ、価格自体は  
コロナ時代より高い水準

# 制裁下にも関わらず、貿易額は過去最高を記録

- 貿易総額、輸出額、貿易黒字： いずれも約10年ぶりに過去最高  
貿易総額：8505億ドル（前年比8.1%増）、輸出額5915億ドル（同19.9%増）、貿易黒字3323億ドル（同66.6%増）
- 輸入額は11.7%減の2591億ドル

なお、ロシア税関は2022年1月を最後に統計の公表を取りやめていた。2023年3月に品目別（HS2桁）の通年データを公開。

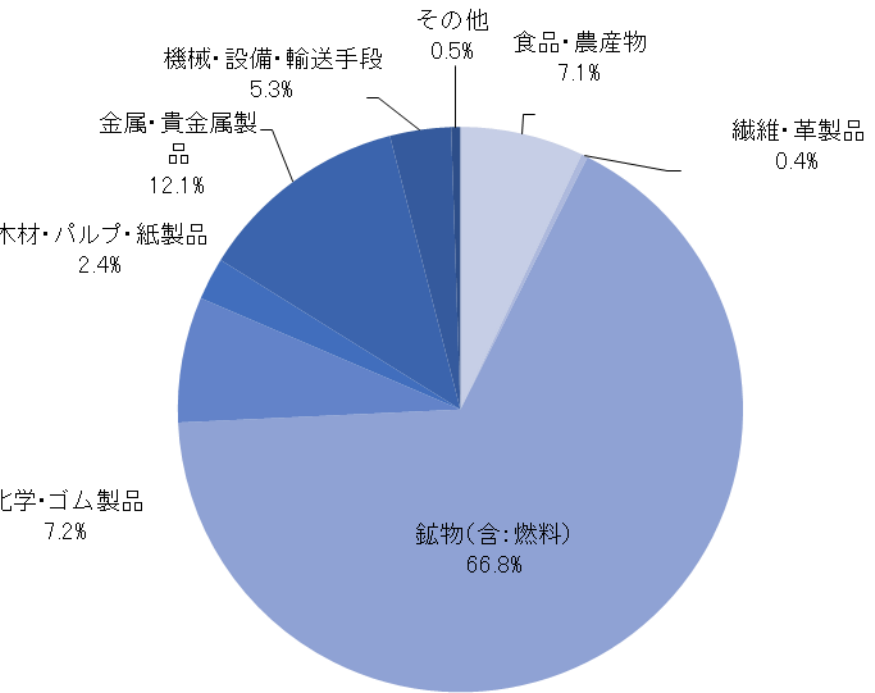


データ：ロシア連邦税関庁

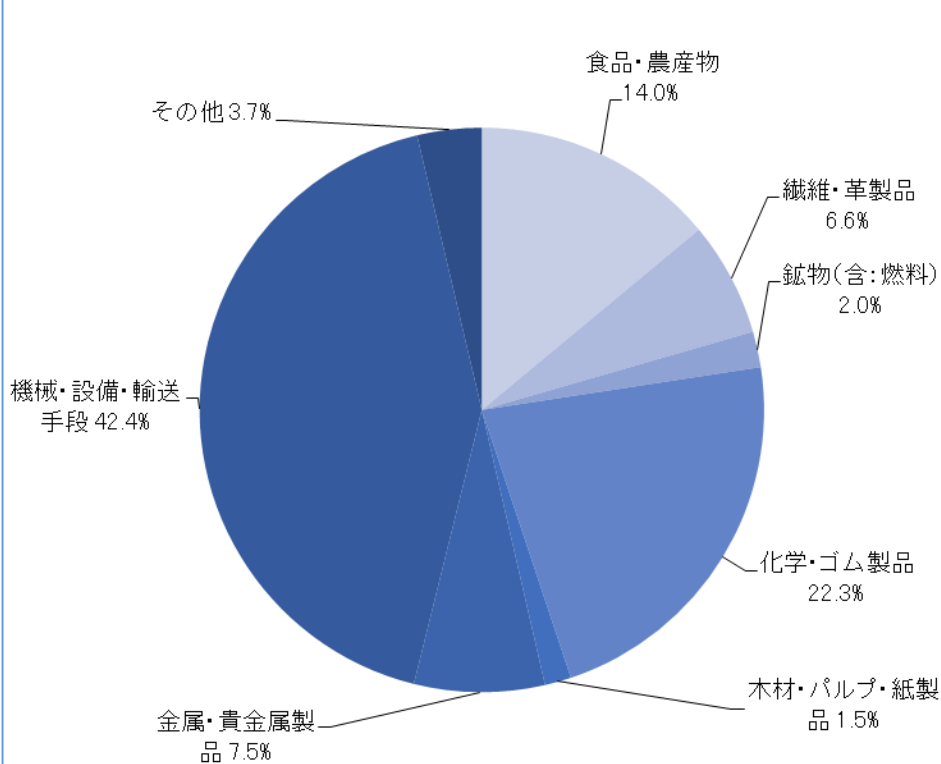
# エネルギー資源の輸出が顕著に拡大

- 鉱物燃料の輸出額は44%増の3837億ドル(輸出の65%)
  - 穀物などを含む食品・農産物は15.0%増、肥料などを含む化学・ゴム製品は11%増
- 輸入の太宗を占める「機械・設備・輸送手段」は24.8%減の1085億ドル
  - 外資系自動車メーカーの生産停止・撤退による完成車、部品輸入減や半導体などの電気製品輸入減などが影響

品目別輸出構成比



品目別輸入構成比



データ:ロシア連邦税関庁

# 貿易相手国の構成は変化

## 西側の「非友好国」との貿易額は総じて減少

- 英国、米国の減少幅が特に大きい一方、ベルギー、イタリア、フランスなど一部欧州国は増加。

## 「友好国」との貿易は増加

- 特にインド向け輸出は対前年比4.6倍もの増加。主に、原油輸入増加による。

国	2021					2022				
	順位	総額	輸出	輸入	→	順位	総額	輸出	輸入	総額増減率
中国	1	145947	78351	67596	→	1	188490	112225	76265	29.2%
ドイツ	2	65833	34197	31637	↓	4	48013	32485	15528	-27.1%
オランダ	3	40627	31230	9397	↓	6	37473	32820	4652	-7.8%
ベラルーシ	4	40030	23660	16370	↗	3	49177	29005	20172	22.8%
米国	5	36022	29635	6387	↓	14	16173	14458	1715	-55.1%
トルコ	6	34734	28959	5774	↗	2	68192	58849	9343	96.3%
イタリア	7	30982	21919	9064	→	7	34182	28015	6168	10.3%
ポーランド	8	29113	19662	9451	↓	9	21374	16277	5098	-26.6%
韓国	9	27336	17357	9980	↓	10	21146	14817	6328	-22.6%
日本	10	21808	13964	7843	↓	11	19814	15139	4675	-9.1%
英国	11	21705	17695	4011	↓	21	8677	7369	1308	-60.0%
カザフスタン	12	21098	14908	6189	↗	8	26683	18146	8537	26.5%
フランス	13	19077	11481	7596	↗	12	19353	16048	3305	1.4%
フィンランド	14	14498	10065	4433	↓	20	8961	6724	2237	-38.2%
ベルギー	15	14354	9202	5151	↗	13	16918	13095	3823	17.9%
インド	16	12055	8724	3332	↗	5	42966	40054	2912	256.4%
<b>世界</b>		<b>778357</b>	<b>507144</b>	<b>271212</b>			<b>835575</b>	<b>615783</b>	<b>219792</b>	<b>7.4%</b>

注: 相手国側データに基づく値  
データ出所: IMF DOTS

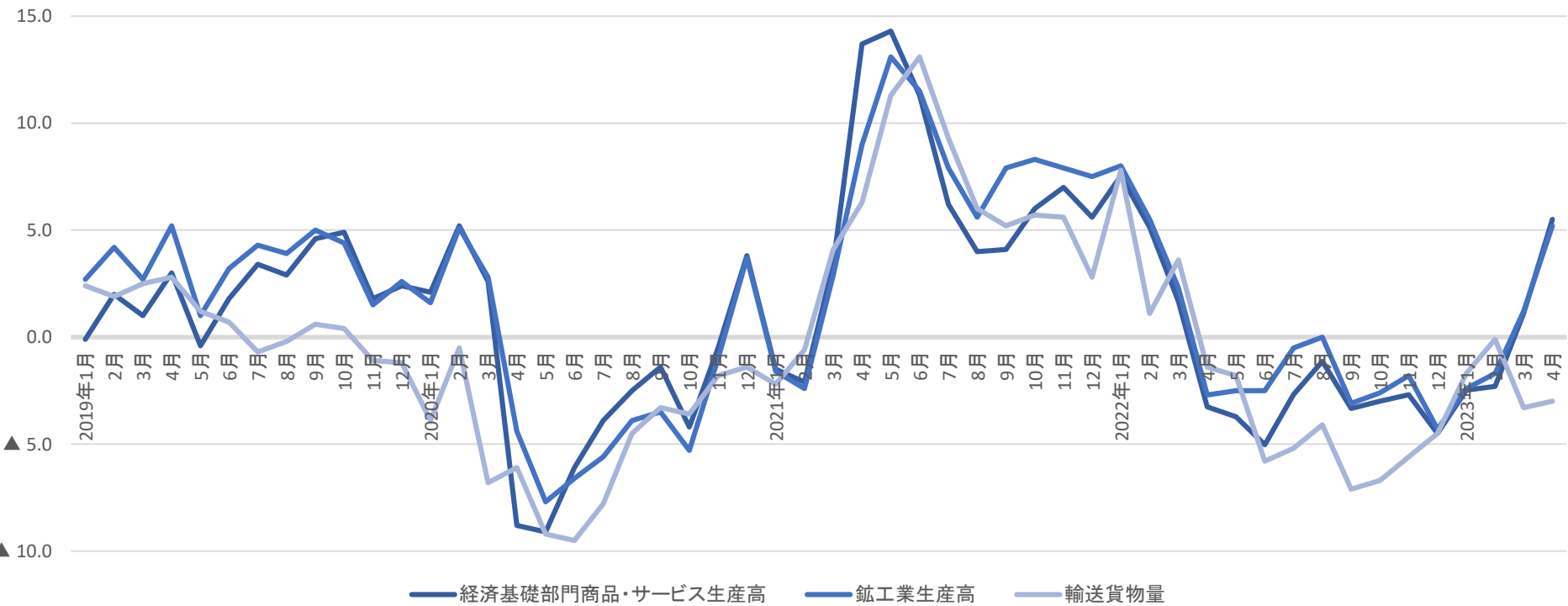


# 2022年4月以降、生産活動は低調

- 生産・輸送に関わる経済指標は対前年同月比でマイナスが続く
  - ただし、ある程度の水準で下げ止まっており、新型コロナ感染急拡大期(2020年第2四半期)より、減少幅は小さい
  - さらに今年に入って状況は改善しており、生産活動は対前年比プラスに浮上(前年落ち込みの反動という側面も)

⇒「壊滅的」という状況ではない

生産活動の動向(対前年同月比、%)



データ:ロシア連邦統計庁

# 部門別の生産（付加価値）動向（2022年）

- ・ 医薬品製造が好調だったのはコロナの影響か
- ・ 個人向けサービス業を中心に対前年比プラス成長した産業も多い
- ・ 外資が軒並み撤退した自動車製造業は、4割以上の大幅減

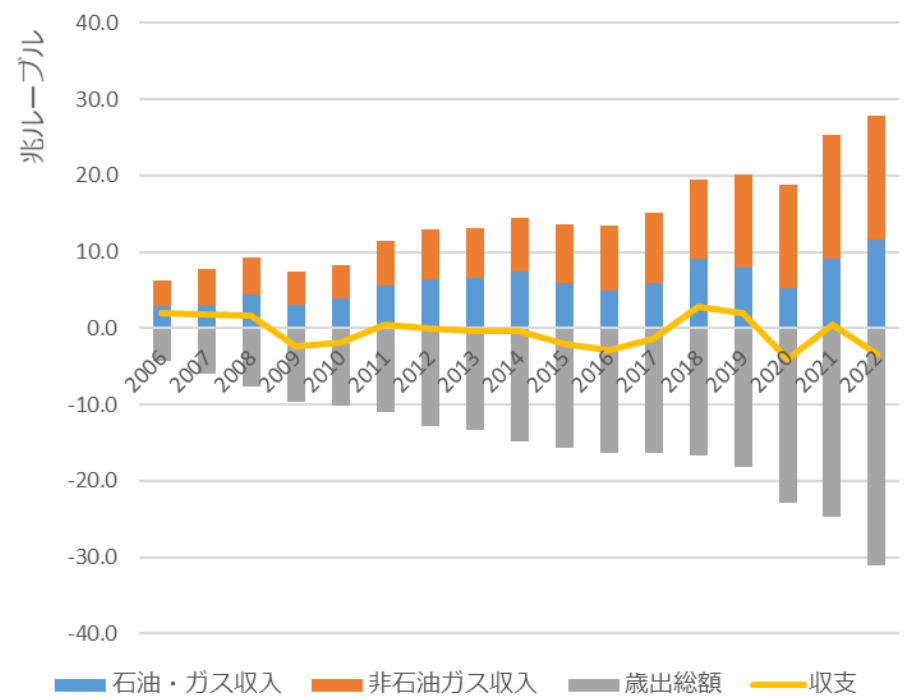
増加産業上位	対前年比	減少産業上位	対前年比
医薬品・医療品製造	108.5	自動車製造	55.5
農畜産業・狩猟及び関連サービス	108.3	自動車・二輪車販売・修理	70.5
スポーツ・休養・娯楽	107.7	航空・宇宙運送業	75.9
出版・印刷	107.0	広告・市場景気調査	82.4
金属製品製造（機械・設備を除く）	106.0	卸売業（自動車・二輪販売を除く）	86.6
建設業	105.0	木材加工（家具製造を除く）	87.2
ソフト開発、IT産業	105.0	排水処理・廃棄物処理	88.0
旅行業及び関連サービス	104.3	コンピューター・日用品修理	89.0
ホテル・飲食業	104.3	職業紹介業	90.1
行政・軍事安全保障・社会保障	104.1	法務・経理・経営コンサルタント	91.6

データ：ロシア連邦統計庁

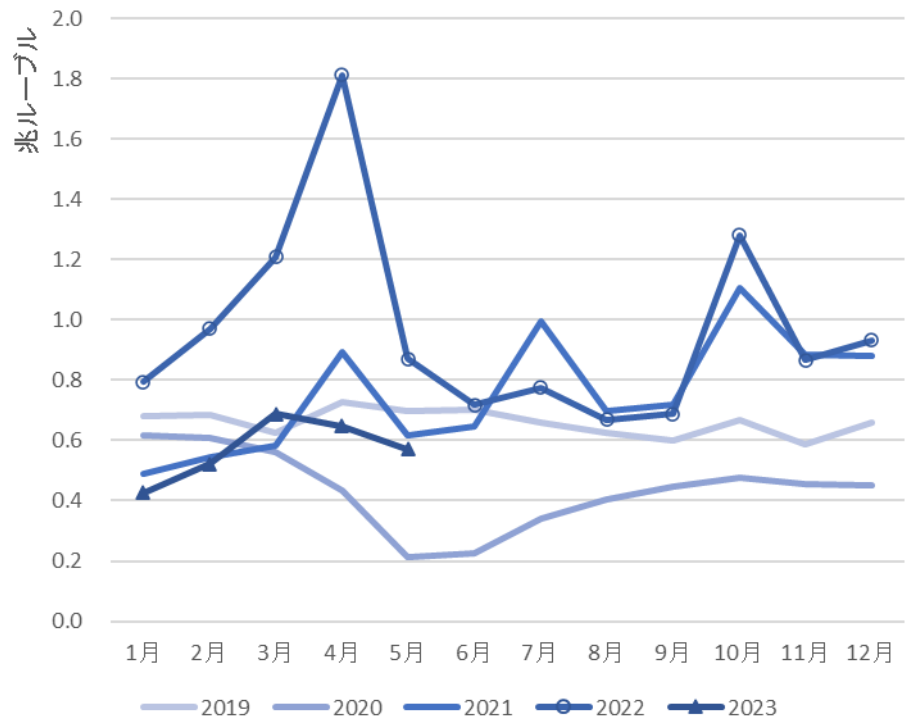
# 財政の破綻はあるのか

- 2022年連邦財政は赤字に転落したものの、対GDP比2.2%であり、「健全」と言える
- 高水準だった石油ガス収入は2023年に入り低空飛行 = 先行き黄色信号(?)
  - 既に通年の赤字見込み額(2.9兆ルーブル)を超えている
- 計算上、「国民福祉基金」取崩で2~3年は持ちこたえられる
  - 当然、国債発行による赤字補填も可能

連邦財政収支



石油ガス収入

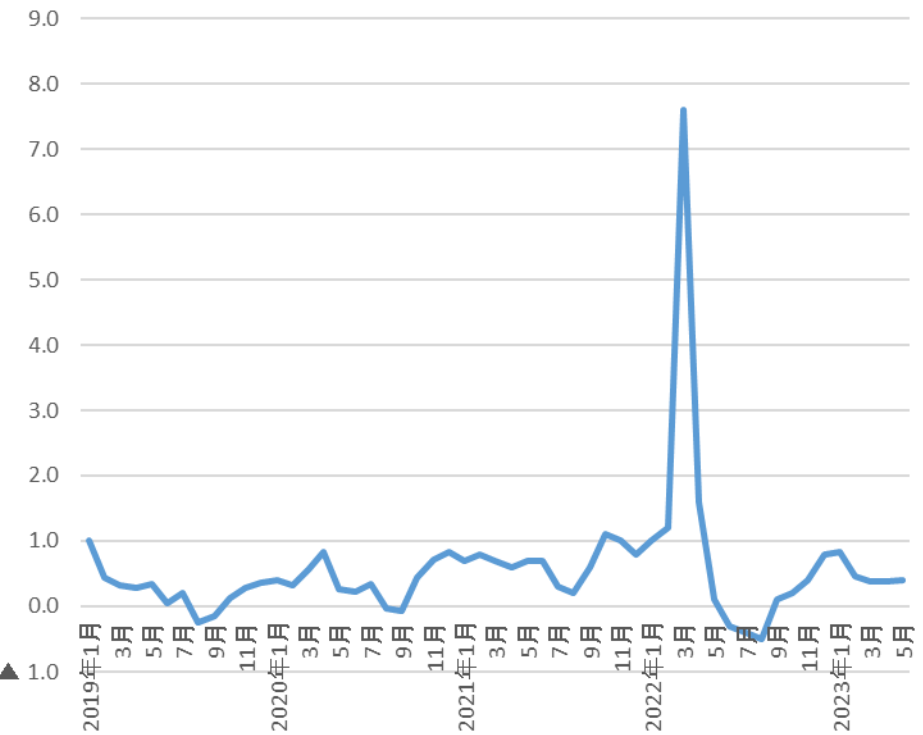


出所：ロシア連邦財務省データ等に基づき筆者作成

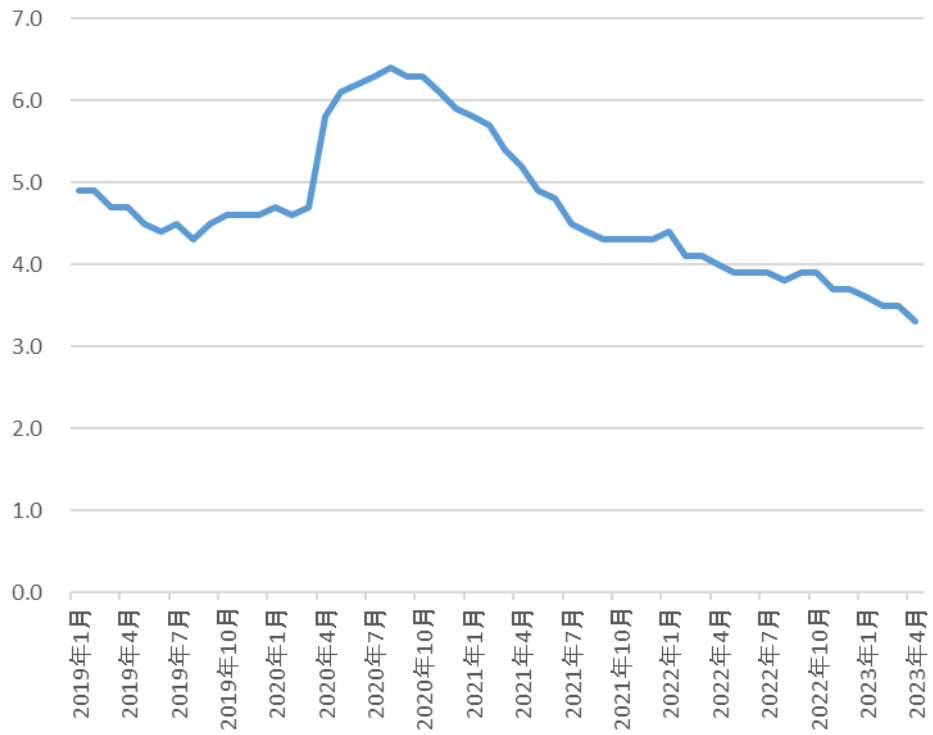
# 国民(家計)は？

- 消費者物価は、22年3月に非常に高い物価上昇率(対前月比7.6%上昇)を記録
  - 夏場には物価が下落 ←ルーブル高による輸入物価安定など
  - 年末にかけて、一時、再び上昇し、年間の物価上昇率は11.9%(2010年以降で2番目に高い水準)
- 失業率は、低下傾向を続け、歴史的低水準(3.3%)
  - もはや、労働力不足が懸念される事態 ←10月の部分動員(30万人)、若者の国外流出などの影響

消費者物価変動率(対前月、%)



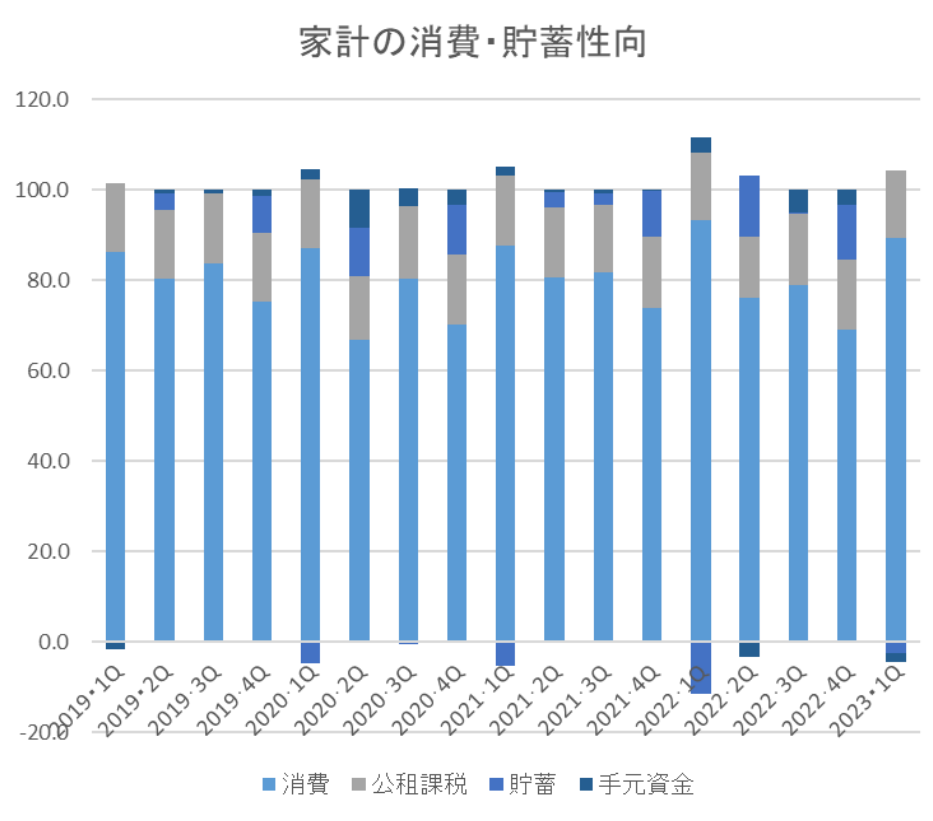
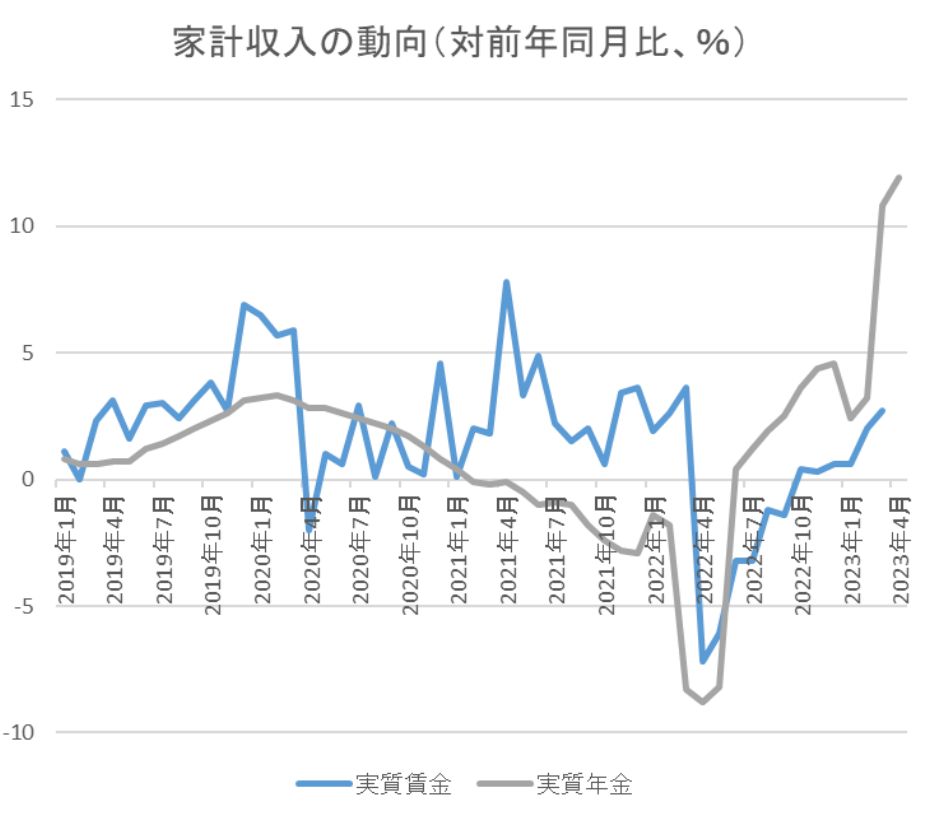
失業率(%)



データ:ロシア連邦統計庁

# 実際に、家計自体の状況も改善

- 足元で、実質賃金・年金収入は増加
  - 実質年金支給額は2022年6月から、実質賃金は10月から対前年比プラス水準を維持
- 2023年に入り、消費を拡大する傾向
  - 2022年末にかけては、消費を抑えて貯蓄を積み増す動きがあった

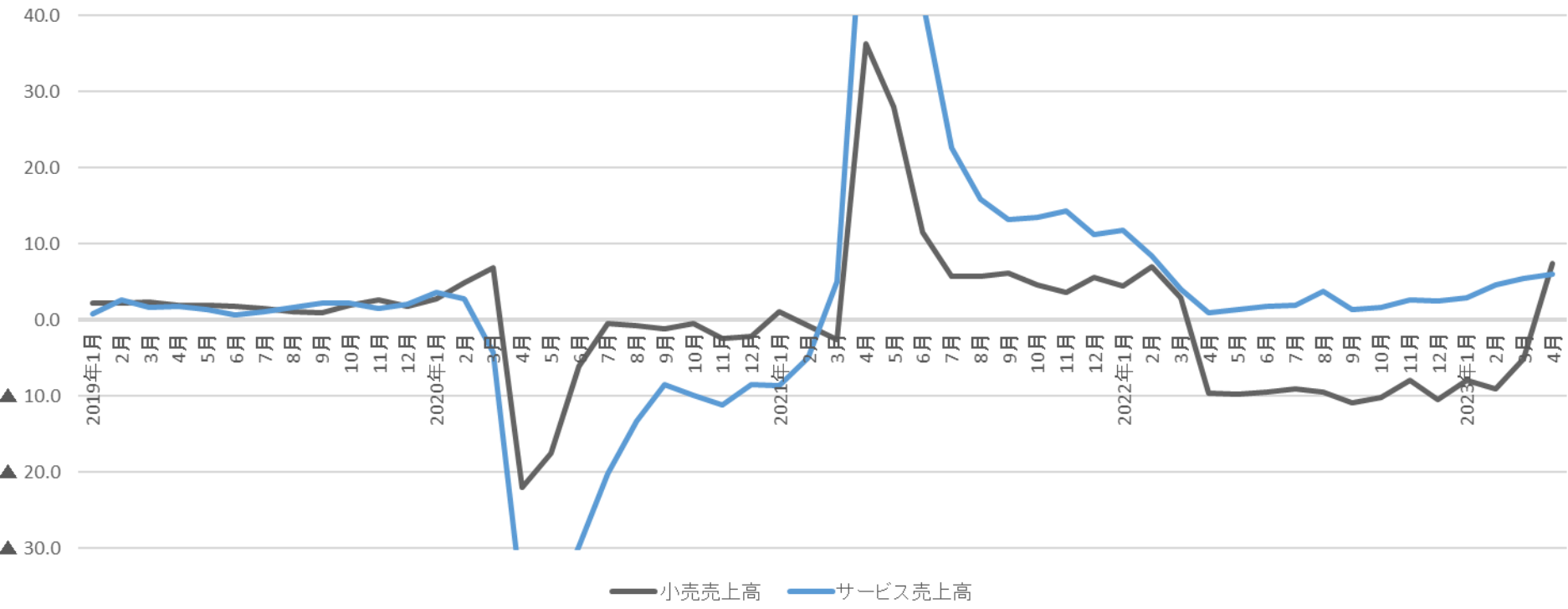


データ: ロシア連邦統計庁

# 消費は、財とサービスで対照的な状況

- サービス売上高: 制裁下でも対前年比プラスを維持  
 - 旅行やホテル・飲食など対個人向けサービスが好調 ←国内旅行が盛況だった
- 小売売上高: マイナス圏に沈んでいたが、4月には反動増

小売売上高・サービス売上高の動向(対前年同月比、%)

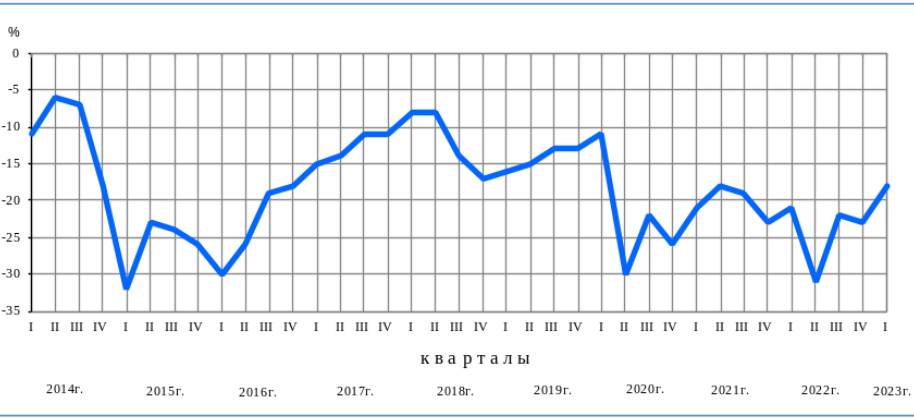


データ: ロシア連邦統計庁

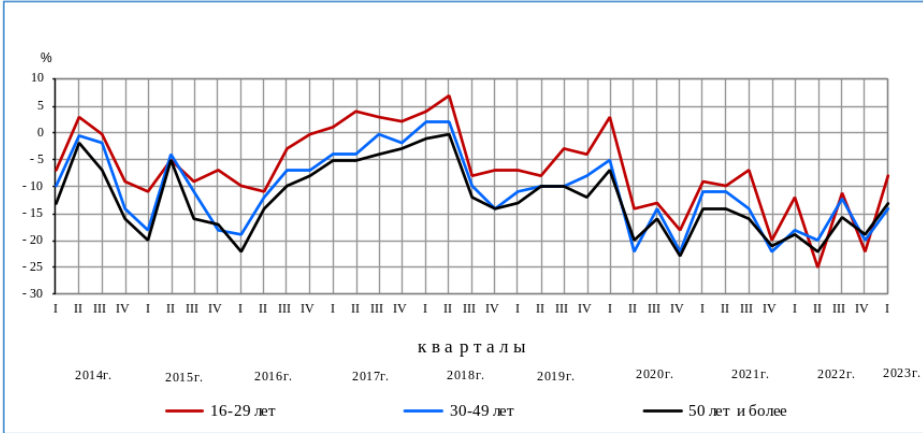
# ロシア消費者心理も改善

- 消費者信頼感指数は2022年第2四半期に-31% ← 過去最悪(-32%:2015年1Q)水準  
 ※消費者信頼感指数は、アンケート調査での回答者の主観(良い/悪い)の割合に基づき計算した指数
- その後は、若干足踏みしつつも、改善傾向にあるように見える  
 - 戦線の膠着状態が続いていることで、一定の「安定感」が生じている？
- ロシア経済の先行きについても、やや楽観的な方向に向きつつあるように見える  
 - 2022年第2、第4四半期は、若年層が悲観的になっていたのが特徴的 ← 戦争を強く意識しているため？

消費者信頼感指数



ロシア経済の将来見通し指数



データ: ロシア連邦統計庁

ロシア経済は戦争(制裁)の負の影響を受けている

今後も体力はじわじわと削られていく

ただし、経済が揺らぐ状況ではない

+

国民は「いつもの不況」という感覚？

経済制裁下でも国民生活は回っている